



[花き部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

1. 挿し穂冷蔵による「岡山リンドウ3号」の挿し芽苗の生育促進

[要約]

「岡山リンドウ3号」の挿し芽増殖において、3週間冷蔵した挿し穂を用いると、良好に発根し、定植後の茎伸長及び越冬芽形成も促進される。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 野菜・花研究室、高冷地研究室

[連絡先] 電話 086-955-0277

[分類] 情報

[背景・ねらい]

挿し芽増殖は、花きにおいて、栄養繁殖系品種等の重要な増殖技術であるが、切り花用リンドウでは発根率や越冬芽形成率が低い等の問題があり、実用化されていない。一方、キクでは冷蔵した挿し穂を挿し芽することによって、その後の生育が促進されることが知られている。そこで、栄養繁殖のリンドウ「岡山リンドウ3号」の挿し芽増殖技術の確立を目的に、挿し穂冷蔵の効果を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 「岡山リンドウ3号」において、挿し穂を3週間冷蔵した後に挿し芽すると、冷蔵しない場合より発根率が高く、根長も長い（図1）。
2. 「岡山リンドウ3号」の冷蔵挿し穂を用いた挿し芽苗では、無冷蔵の場合より定植後の茎長が長く、越冬芽形成株率が高くなる（図2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 真庭市（標高460m）の農業研究所のビニルハウスでセルトレイ育苗及びポット栽培した結果である。
2. 挿し穂は、親株から伸長した主茎を茎頂部から2節下で切除したものをを用いた（図3）。
3. 挿し穂冷蔵は、「岡山リンドウ3号」の挿し穂を200穴セルトレイに1本ずつ立て、これを深型育苗箱に入れてビニル袋で包み、2℃、暗黒条件下のインキュベーター内で3週間行った（図4）。
4. 挿し床は、鹿沼土とシステムソイル101号（リンドウ用）の混合土（2：1、体積比）を入れた200穴セルトレイを用いた。



[具体的データ]

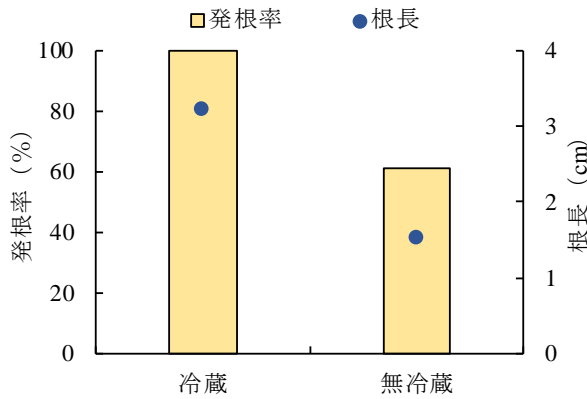


図1 挿し穂採集後の冷蔵期間の有無が挿し芽苗の発根に及ぼす影響

注1) 令和3年度に「岡山リンドウ3号」を供試し、真庭市で実施
 注2) 挿し穂を5月7日に採集後、無冷蔵区では直後に、冷蔵区では3週間冷蔵後に挿し芽し、底面給水とミスト灌水下で育苗、挿し芽20あるいは21日後に発根率と最長根長を調査

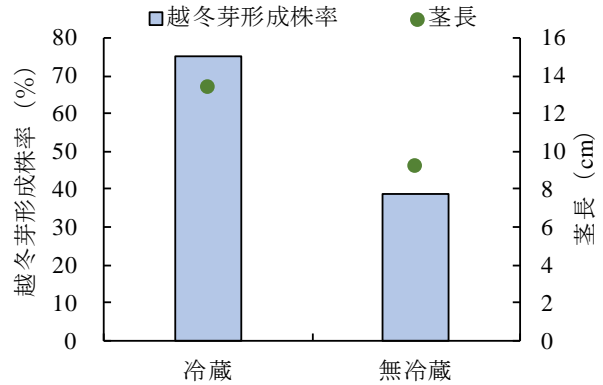


図2 挿し穂採集後の冷蔵期間の有無が挿し芽苗の茎長及び越冬芽形成に及ぼす影響

注1) 令和3年度に「岡山リンドウ3号」を供試し、真庭市で実施
 注2) 図1の苗の発根調査日に6cmポットに、7月26日に9cmポットに移植、9月21日に最長茎長を、12月6日に地際に形成された越冬芽数を調査（挿し芽穂数を母数）



図3 採集した挿し穂



図4 挿し穂を冷蔵前にセルトレイに立てた状態

[その他]

研究課題名：岡山県の気候に適したリンドウ新品種の育成

予算区分・研究期間：県単・平成29年度～

研究担当者：森義雄、竹岡みのり

関連情報等：1) 試験研究主要成果、[令6 \(63-64\)](#)

2) 森ら (2022) 園芸学会中四国支部研究発表要旨、60:26